

## 小児の抗生剤まとめ。

ペニシリン系						
グラム陽性菌がメイン。大腸菌など一部のグラム陰性菌にも有効。 ただし、肺炎球菌、インフルエンザ菌などペニシリン耐性株も近年問題になっている。						
薬品名	一般名	1日量	回数	1日最大量	味	備考
サワシリン細粒10%	アモキシシリン	20~40mg/kg (0.2~0.4g/kg)	3~4回	90mg/kg	オレンジ	倍力価のワイドシリン細粒200がある。
ユナシン細粒 小児用10%	スルタミシリン	15~30mg/kg (0.15~0.3g/kg)	3回		コーラ	アンピシリンとβラクタマーゼ阻害剤のスルバクタムを結合させた相互プロドラッグ。
クラバモックス小児用 配合ドライシロップ	アモキシシリン クラブラン酸	96.4mg/kg (0.15g/kg)	2回12時間ごと 食直前		ストロベリー クリーム	ボトル製剤を使用する場合は1日量が0.75mL/kgになるよう調製すること。
セフェム系						
第3世代がメイン。第1、2世代に比べグラム陰性菌に対し強い抗菌力を有するが、グラム陽性菌に対する抗菌力は減弱している。 ピボキシル基を有するメイアクト、トミロン、フロモックスは、低カルニチン血症に伴う低血糖に注意。						
薬品名	一般名	1日量	回数	1日最大量	味	備考
セフゾン細粒 小児用10%	セフジニル	9~18mg/kg (0.09~0.18g/kg)	3回		イチゴ	鉄剤との併用で約1/10まで阻害。 併用時は3時間以上あけて鉄剤服用。
メイアクトMS 小児用細粒10%	セフジトレン ピボキシル	9mg/kg (0.09g/kg)	3回食後	18mg/kg (*1)	バナナ	耐性インフルエンザ菌に効果があり、 耳鼻科領域でよく使われる。
トミロン細粒 小児用10%	セフテラム ピボキシル	9~18mg/kg (0.09~0.18g/kg)	3回		イチゴ	グラム陽性菌に対しても、 アモキシシリンと同等の抗菌力。
フロモックス小児用 細粒100mg	セフカペン ピボキシル	9mg/kg (0.09g/kg)	3回食後		イチゴ	とても広い抗菌スペクトルと 強い抗菌力を併せ持っている。
(*1)肺炎、中耳炎、副鼻腔炎の場合。それ以外は9mg/kg。						
カルバペネム系						
現在経口用カルバペネム系の薬剤は1剤のみ。 他の抗菌薬による治療効果が期待できない症例に限り使用する。						
薬品名	一般名	1日量	回数	1日最大量	味	備考
オラベネム小児用 細粒10%	テビベネム ピボキシル	8mg/kg (0.08g/kg)	2回食後	12mg/kg	イチゴ	トミロン等同様ピボキシル基を有するので、 低カルニチン血症に伴う低血糖に注意。
ホスホマイシン系						
単独では活性が弱い他抗生剤と併用されることもある。 シスプラチンなどの腎毒性薬物に対する腎障害軽減作用も報告されている。						
薬品名	一般名	1日量	回数	1日最大量	味	備考
ホスミシン ドライシロップ200	ホスホマイシン	40~120mg/kg (0.2g~0.6g/kg)	3~4回		乳酸飲料	腸管への移行性に優れているため、 腸炎などの感染症にも有効。
マクロライド系						
14員環構造のエリスロシン、クラリスに抗炎症作用があり耳鼻科領域でもよく使われる。 マイコプラズマに対し強い抗菌作用を有していたが、近年耐性菌が問題となっている。 酸性のものと混ぜると苦みが増す。ムコダイン、ヨーグルト、スポーツ飲料、果汁のジュースなど。						
薬品名	一般名	1日量	回数	1日最大量	味	備考
エリスロシン ドライシロップW20%	エリスロマイシン	25~50mg/kg (0.125~0.25g/kg)	4~6回		バニラ	半減期が1.5時間と短く服用回数が多い。
クラリスドライシロップ 10%小児用	クラリスロマイシン	10~15mg/kg (0.1~0.15g/kg)	2~3回		イチゴ	エリスロシンに比べ酸に安定で 血中濃度が高く持続性。
ジスロマック細粒 小児用10%	アジスロマイシン	10mg/kg (0.1g/kg)	1回		オレンジ パイナップル	3日間服用で7日間効果が持続。
テトラサイクリン系						
Ca、Mg、Al、Feを含む薬剤や食品との併用により吸収低下。 8歳未満の小児では歯牙の着色・エナメル質形成不全、骨発育不全があるが、5、6歳に3、4日処方であれば問題にならないとされている。						
薬品名	一般名	1日量	回数	1日最大量	味	備考
ミノマイシン顆粒2%	ミノサイクリン	2~4mg/kg (0.1~0.2g/kg)	1~2回		オレンジ	マイコプラズマに対しマクロライド系で効果 不十分の場合切り替えて使用する。
ニューキノロン系						
幼若動物において関節異常が認められているため小児に禁忌とされていたが、耐性菌の問題や選択肢拡大のためオゼックスの小児適応が認められた。 Ca、Mg、Al、Feを含む薬剤や食品との併用により吸収低下。						
薬品名	一般名	1日量	回数	1日最大量	味	備考
オゼックス細粒 小児用15%	トスフロキサシン	12mg/kg (0.08g/kg)	2回		?	細粒の適応症は、 肺炎、コレラ、中耳炎、炭疽のみ。